

平成24年度の東京鶴城会は、たいぎゃな良かったばい！

平成24年度の総会は、例年と同じく5月の第4土曜日26日に開催されました。
 一昨年は、東日本大震災の影響で、東京鶴城会始まって以来の中止となりました。
 従いまして、先ず、開催の前に参加者全員で、東日本大震災で犠牲になられた方の冥福を祈り、黙祷を捧げることから始まりました。

今回は場所も変わり、**東京ドームホテル**B1の「オーロラ」とレベルアップし開催しまして、田口信夫同窓会長他五名の来賓を迎え、約80名が盛大に集いました。

西村会長の「今日は大いに熊本弁を使いましょう！」の挨拶から始まり、越猪宇土高校校長がそれに応えるように、懐かしい「熊本弁」たっぷりの挨拶があり、会場の雰囲気は一気に盛り上がりました。

今回の議事課題は、財政難での総会の運営課題、西村恭輔会長と植田幸一監査幹事の御勇退に伴う役員改選が主な議題でしたが、満場一致のもとに承認されました。

新役員体制は、

顧問	西村恭輔（昭和25年卒）	新
会長	田中幸資（昭和38年卒）	新
副会長	境屋由夫（昭和40年卒）	現
副会長	吉岡明美（昭和41年卒）	現
副会長	池田伴雄（昭和42年卒）	新
会計部長	田中久美子（昭和43年卒）	新
会計監査	萩原秀文（昭和42年卒）	新
事務局長	河野 毅（昭和40年卒）	現



となりました。東京鶴城会も、同窓会が抱える組織の高齢化と若年層の参加減少問題は例外ではありませんが、出席者がいる限りは、楽しい同窓会！そして、母校と故郷を思い出させる同窓会を開催する事を継続していきます。

東京鶴城会便り

発行責任者
田中幸資

必ず来なっせ。東京ドーム
ホテルで待っとっですばい！

東京鶴城会フォトコレクション

平成24年度



おやしバンドの演奏で、会場の雰囲気は最高潮！



平成22年度

若い世代の参加者が、会場を明るくしてくれます！



今年の東京鶴城会に是非、ご参加ください。
エンジョイしましょう！

平成17年度



【ここにもいました、年配の頑張り屋！】

先日、実に40数年ぶりに宇土高時代の同級生と再会しました。皆さんにも経験があると思いますが、長い空白の期間があるにも関わらず、お互いに何の違和感もなく「久しぶり〜」と挨拶をして、そのまま品川駅周辺の居酒屋へ直行して、お互いの近況などを語り合いました。彼の今回の上京目的は、農業従事者にとって最大規模である、オイシックス主催の『N-1サミット』への出席で、彼はフルーツ部門で表彰をされていました。

居酒屋に着いて乾杯をした後、彼は、誇らしげにメダルと表彰状を見せてくれました。一昨年も受賞をしていたということで、その時の様子が描かれた小冊子も見せてくれました。会社勤めであれば、定年になっている年齢にも関わらず、彼は「もっと良い果物を沢山作り、日本国内だけでなく、外国の皆さんにも食べてもらいたい」との思いを熱く語っていました。

「より良い果物づくり」に取り組んでいる彼の姿には苦労が全く感じられず、真摯に、そして楽しみながら仕事をやっている様子が窺えました。自分から意地悪く「自然相手の仕事は大変だろう？」と質問をしてみたところ「そぎゃんこつば考えたって、どぎゃんもならんどが」と笑いながら、サラッとかわされました。「情熱を注げる一生の仕事を持つということは素晴らしいことだ」と改めて感じました。

彼は「康子（奥さんの名前です）が厳しかけん、仕事ばせなしょんなかもん」と言って笑っていましたが、その奥さんは、1期下の宇土高校の卒業生です。

現在は、ご夫婦を中心に家族9名で生活をしており、息子さん夫婦と一緒に果樹園を切り盛りしているそうです。（大家族が羨ましい！！）

常に工夫を怠らず、より良い果物作りに邁進している宇土高卒の夫婦に、今にも増して、大きな幸が「結実」して欲しいものだと思いますながら、再会を約束して別れました。

彼との再会は勤めを辞めることを考え、大した目標もないままに生活している自分には、大変な刺激になりました。

さあ、自分もグウタラせず頑張らなくっちゃ！

* 因みに、彼の名は中田純一君、奥さんの名は康子さん（旧姓 福永）です（添付写真。お二人の笑顔が、とても素敵ですね！）。宇城市郡浦で、デコボン（不知火）とレモンを作っています。

興味がある方は「中田果樹園」で検索してみてください。

昭和42年卒 萩原秀文



A 列車で行けなかったけど...

少しだけ古い話です。昨年11月下旬の三連休に熊本に帰省しました。中日の24日は暇だったので、車で宇土半島を一周しようとしたのですが、免許証を忘れていました。しかし、どうしても海を見たかったので、三角線に乗ることにしました。熊本駅に行ったところ、最近話題の「A列車で行こう」は満席でした。このため、各駅停車を利用するしかなかったのですが、乗ってみると味わい深いものがありました。

三角線（宇土駅と三角駅間）に乗るのは、高校3年生の夏休み以来、実に34年ぶりですが、そもそも三角線に乗ったことは2、3回しかありませんので、列車で宇土駅から西に向かうことは、私にとっては、ほとんど未知の世界へ突入するようなものです。

宇土駅から一つ目の緑川駅は、「何故、緑川なのだろうか？」という高校の頃からの疑問を引きずりつつ、住吉駅を過ぎた辺りから、「そろそろ見えてくるかな」とそわそわしてきました。すると、北側に干潟が期待どおり広がっていました。干

潮に近かったようで、遠浅の海に広がる干潟が、金峰山や雲仙まで繋がっているような感覚になりました。こうした干潟の有明海は、長浜まで続いていましたが、赤瀬辺りからは海水が沿岸まで来ていました。こうした風景は車でも目にするものであり、1年前にドライブしたばかりなのですが、のんびりとした各駅停車から望む海（干潟）の上に道路が走る風景は、従来よりも増して、不思議さと心地よさをもたらしてくれました。赤瀬駅を過ぎると列車は山に入り、「石内ダム駅」という私が高校時代にはなかった駅がありました。

34年ぶりに訪れた三角駅は、昔の記憶がないので、何がどう変わったか判りません。控えめな上品さを醸し出している駅舎の天井や内装などから、比較的、最近改装したのだと感じました。駅弁も2、3種類あり、駅舎内に観光案内所も併設されていました。ひなびた駅を想像していた私には嬉しい誤算でした。

その日は、熊本に初めて寒波が訪れ、三角港を散策しても寒さが身に沁みるだけでした。私が高校卒業後

に三角のシンボルのようになったピラミッド状の建造物は差押えられており、立入禁止になっていました。

1時間後に上り電車に乗り、熊本駅に向かいました。干潟はほとんど目にできませんでしたが、住吉灯台を過ぎる時、幼い頃から通る度に感じたように、「海とはしばらくお別れだ」との気持ちがこみあげてきました。

新幹線が開業して熊本駅が身近になったせいか、私の乗った列車には福岡県から来たらしい初老のご婦人の団体や、ビデオカメラの撮影に夢中なオタクが4、5人いました。

本来、誰しも干潟よりも青々と輝く海が好きはずだと思いますが、宇土高生だった方の多くは、泥で濁った干潟の海に郷愁を感じると思います。皆さんはいかがでしょうか。なお、記憶に留めたかったので、カメラ撮影はしませんでした。描写が間違っていましたらご容赦ください。

昭和53年卒 K.N.



会員の皆様、こんにちは。昭和40年卒の境屋です。
私の国宝天守閣訪問記は、長野県の松本城、滋賀県の彦根城、そして前回愛知県の犬山城訪問で、国宝の天守閣は、改装中の姫路城を残すのみとなりました。

その姫路城は、現在天守の改修中にて、平成27年3月頃の完成との事で、しばらくは訪問できません。
従いまして、国宝4天守から現存十二天守訪問に目標を変更して、訪問記を継続したいと思います。現存十二天守は、北から、青森県の弘前城、長野県の松本城（訪問済）、福井県の丸岡城、愛知県の犬山城（訪問済）、滋賀県の彦根城（訪問済）、兵庫県の姫路城、島根県の松江城、岡山県の備中松山城、香川県の丸亀城、愛媛県の松山城、愛媛県の宇和島城、高知県の高知城と全国に広がっていますが、お気づきのとおり、九州には現存天守閣がありません。あの大きな熊本城は、残念ながら西南の役に焼失しています。

しかし「宇土櫓」は天守閣に匹敵する大きさで、内部は松本城にも似た作りのため、現存天守と言っても過言ではないと思っています。地元のひいきだけとは思っていないのは、私だけでは無いと思いますが！

この現存十二天守のわずか三天守を訪問しただけですから、まだ75%が残っている事となります。ますます、これから楽しみで、俄然やる気です！

今回は、これからの現存十二天守閣訪問を計画する上で、前回の国宝犬山城訪問のついでに行ってきた、名古屋城と清洲城の訪問記（2012年12月14日訪問）を番外編としてご案内いたします。

まず、金の鯨で有名な「名古屋城」は、“関ヶ原の戦い”に勝利した徳川家康が、慶長14年（1609）豊臣方への備えとして名古屋城の築城と、清洲から新城下への街まるごとの引越しを決定。町名や橋の名前まで、この新たに造られた街

に移築して、現在の名古屋の原型となったと言われています。その名古屋城は、会社の社員旅行で行ったきりで約40年振り、地下鉄市役所駅から東門を経て天守閣が見えるところまで行くのですが、途中には「清正公」の銅像があって、さすが石垣作り名人の築城での貢献度が発揮された証でしょう。天守閣が見える手前では「本丸御殿」の復元工事中で、2013年5月29日には公開されるそうです。天守閣は戦災で焼失し、現在の天守閣は、昭和34年に再建されたものです。

したがって、現存十二天守閣ではありませんが、戦災をまぬがれた三つの櫓と三つの門が重要文化財として残っています。とても規模の大きい城郭建築には間違いないものと感心させられます。

次に、清洲城を訪問しましたが。名古屋駅からJR東海道線で岐阜方面に下り「清洲駅」で降り、徒歩15分位の所に「清洲城」はありました。真っ赤な欄干の橋を渡って入場しますが、お城も橋も新しくてまばゆいばかりでした。織田信長公が那古野城から入城し、桶狭間の戦いに勝利した信長公は、ここ清洲から天下統一の第一歩を踏み出したとの事です。現在の天守閣は近代的な建物で、4階建ての内部は、近代的な画像とバーチャル体験ができる施設があって、子供でもゲーム感覚で楽しめそうですが、私個人的には、あまり好きではありませんでした。

しかし、天守閣最上階からの眺めは、天下統一を図った信長公の思いをしのばせる眺めでしたが、やはり歴史ある現存天守閣の木造の趣は、400年の歴史を感じさせる魅力があり、現代で再建された天守閣のそれとは勝負になりません。

これからの現存十二天守閣訪問へ乞うご期待！！いまから思いを強める結果となりました。

お城訪問国宝シリーズ番外編！



名古屋城1



名古屋城2



清洲城



清洲城からの眺め

シリーズ化して
ますヨ！

『私の釣りバカ日記』 - “大島に行ったとです” 編



昨年6月28日、Y社長と社員のA子さんと私の三人（いつもの三人組です）で、大島へイサキ釣りに行きました。A子さんは、二級免許取得の腕前で、船の運転には自信があります。「運転している時は船酔いしないから、運転したい」との強い要望で、往復3時間を一人で運転することになりました。当日は、快晴ベタ凧でした。

私は、A子さんの横に立ち、テキパキとした動作で見張りや指示を出しました。朝8時に久里浜港を出船し、船速30ノットでクルーザーは海面を滑るように走りました。三浦海岸下浦、松輪、城ヶ島大橋を遠くに望み、漁場の大島空港前に到着。ハリス3号3M2本バリ、3人とも、釣り始めて、すぐに25～30cmのイサキが“入れ食い”状態でした。昼飯も忘れ釣りに没頭し、午後1時頃には、漁漕はイサキで一杯でした。Y社長は、「100匹は釣れたぞ！」と大喜びでした。A子さんも上機嫌で、帰りの運転も彼女に任せて帰路につきました。

井上 二郎（昭36年卒）

趣味の充実！



今までは、ほんの遊びのゴルフでした。40年続けた服飾デザインの仕事も腰痛でひと区切りつきました。誘うて下さるゴルフ練習場の仲間もいて、年会費を払い、月例に出るべくスコアを提出し、4月にハンデを取る予定です。とは言うものの、「栃木の森」(ゴルフ場)はアップダウンのきついコースで、砲台グリーンや大きく口を開けたバンカーがあり、各所の池にも阻まれ、シングルの仲間と一緒にプレーするのは、本当に至難の業です。

2月のコースは、ティーアップは凍りつき、硬いグリーン上をボールが走り、スコアはまとまらず、プレー後、仲間からは「グリーンは手前から、手前から」とアドバイスを受け、私自身の思考能力を豊かにしなければと反省しきりでした。3月中旬までは、まだ寒く、身体の暖をとるため、カイロを体中に貼りプレーしていました。あと3、4年は、元気でプレーできればと思っています。ちなみに、最近のスコアは、100(2月11日)、101(3月3日)、103(3月20日)で、恥ずかしい“100叩き”です。

大久保 千鶴(昭和38年卒)



創刊号からシリーズ化した熊本弁講座ですが、またまた好評?につき、調子に乗って、今回は「か」編です。どうぞ声に出して、熊本弁の良さを存分にご堪能ください。

- ①「**カンナシ**」(手加減なし、無鉄砲、限度なし)
「あやつあ、カンナシにもものば言うけん、困ったもん」
(あいつは、限度なくものを言うので、困るんだよ)
- ②「**カカシル**」(掻きむしる、引っかく)
「あんまりカカシルと、血が出っぞ」
(あまり掻きむしると、血が出ますよ)
- ③「**ガマダス**」(良く働く、精を出す)
「あすこん、かちゃん、たいぎゃな、ガマダスな」
(あそこのお母さん(奥さん)は、とても良く働きますね)
- ④「**カンボス**」(空っぽ、頭が悪い)
「うちん子は、勉強もせでん、カンボスですたい」
(私の子供は、勉強もせず、頭が悪いんですよ)
- ⑤「**カラウ・カタグ**」(担ぐ)
「ランドセルばからえ」「子供ばからいなっせ」
(ランドセルを肩にかけなさい)(子供を背負いなさい)
- ⑥「**カタル**(加担る)＝加わる。仲間に入る。
「オルもかててはいよ」
(僕も仲間に入れて下さい)
- ⑦「**カツガツ**」(各々、それぞれ)
「カツガツ食ってはいよ」
(それぞれ食べてください)

38年振りの同級会は...

我々、昭和50年の卒業組は、毎回、**オリンピックの年に**、年次同窓会を開催しております。昨年も、8月11日(土)に熊本市内の日航ホテルにて開催されました。既に、5回目か6回目の開催になりますが、私は、前職が旅行会社の営業だったので、お盆等で皆さんが休みの時は、ほとんど添乗で出張のため、毎回欠席でした。お盆の時期でもあり、飛行機も混むので、今回も欠席で返事を出そうとしているとき、一人の友人から電話があり、「会えるときに会ったかんと、会えんごつなるかん知れんぞ」と言われ、思い切って出席することにしました。

まず、お盆の飛行機の手配は面倒だと思いつつ、旅行会社の友人に頼み、何とか手配してもらいました。以前は、全日空か日本航空だけだったのが、ソラシド航空という聞いたこともない名前の航空会社でしたが、その日が来るのを、いろんな妄想をしながら、まだか、まだかと本当に子供のように楽しみに待ちました。

いよいよ当日、高揚した気持ちを抑えられず、出発の2時間前には羽田空港到着。熊本到着後、予め手配したレンタカーで、同窓会会場のホテルへ。到着後、チェックインして

落ち着くためにも、まず一杯ゴクリ。た気分になりました。

同窓会会場に到着すると、幹事役の懐かしい顔が20人ほど準備をしており、邪魔にならないように、会場の隅のほうで待っていると、続々と参加者が来場し、知った顔を見つけ、すぐに熊本弁で現状報告、また、昔話に花が咲く。そこへ、昔の悪友共が次々に入ってきました。我々の時には、1学年で9組あり、学年主任の先生はじめ、各組の恩師もご出席いただき、約100名の参加者でした。まず、記念写真の撮影で始まり、クラスごとに着席して、幹事長、学年主任の先生の挨拶。さあ～開宴です。

現在の話をする人は誰もいなく、みんな、いいおじさん、おばさんになりながら、気持ちは**すっかり「高校3年生」**にタイムスリップです。私の高校生活は、けっして褒められた学生ではなかったので、「もう、時効だけん良からう」の思いで、飲酒や喫煙、初めてのパチンコで担任に見つかり、母ちゃんが父兄召喚されたこと等々、みんな悪いことはよく覚えていました。私にしても、勿論、他人の行儀の良くない行いはよく覚えています。面白おかしく、暴露合戦。いや～実に楽しいひと時でした。わだかまりのあった先生とも、酒を飲みながら話ができて、38年ぶりに雪解けになり、すっきりとし

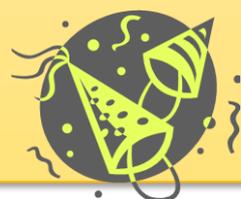
ただ、38年の月日は残酷なもので、容姿を変えさせてしまいます。昔の名残はあるのですが、一目で誰かわからない人もいます。胸元の名札を見て驚き、「あ～!あんだかい!」

楽しい時間はすぐに過ぎ、還暦での再会を誓い合い、閉宴となりました。同級生が経営する飲み屋に場所を変えて2次会へ。男も女も、**暴露合戦**の第2ラウンドが始まり、「オラ、あんだば好いとった」と何人かの女性に言ってみました。期待した答えは誰からも返ってきません。「まあ～現実、こんなもんだろう」と妄想はもろくも消えていきました。

私は、今回、初めての参加でしたが、非常に楽しかったです。この記事を読まれた昭50年卒業生は、次回は是非、熊本に帰りましょう。但し、お盆等の混雑期は**はずすげな**。

その前に、今年5月の東京鶴城会でお会いしましょう。

昭50年卒 松藤 明



昨今の教育事情を拝見していますと、いくら有名大学を卒業しても、世の中で活躍する人、成功する人、画期的な発明をする人は限られていることが議論されています。先日読んだ本では「〇〇大学で終わる人、〇〇大学から始まる人」というものがありました。また、東京で東大入学者数トップクラスの開成学園の校長先生が、同校の学生が大学に進学しても地方の学生に負けてしまうことに対して、どのように学校として対処していくかを朝日新聞で述べられていました。

ハーバードも然り、です。卒業式の際、学長がきっぱりと「あなた達の30%しか社会で成功しません。いくらハーバードを卒業しても全員が成功するとは限りません」と言っていたのは印象的です。しかしながら、オバマ大統領やケネディー元大統領、ビル・ゲイツ（マイクロソフト）やザッカーバーグ（フェイスブック）など世界的に活躍している人を多数輩出しているのもハーバードです。また、浦島郁夫・熊本県知事もハーバード出身と身近に活躍されている人もいらっしゃいます。

以前も書いたように、ハーバードでは、どのように社会に貢献するかを教育されるのではなく、社会で活躍するための本当の基礎を教えてくれることです。ハーバードとは少し離れますが、亡くなったスティーブ・ジョブズのスタンフォード大学卒業式のスピーチは印象的です。これまで生きてきた中で学んだ**“点”と“点”を繋ぐ**。人世で学んだ無駄なものはない。天才とはその点と点の繋がりに気づき、線とし、過去の経験を繋ぎ合わせて新たなものを創造していく。確かにその通り。これに気づき成功していく人はほんの一握りの人なのかもしれません。そう考えると、ハーバードの“30%”は逆に多いのかもしれませんが。

少なくとも、人世に一度は自己投資

これまで小学校から大学まで、学費はすべて親が出してくれました（感謝!!!）。しかし、今回は奨学金をもらった以外は、当然ながら自腹を切った留学でした。大学の講義でも「あなたが今受けている講義は〇ドルも払っているのですよ。その分、ちゃんと勉強して帰らなくては」と言われていました。自ら選んだ道とともに授業料を払っているのだから、これまでにない真剣な気持ちで、講義に臨んでいたのは事実です。

どんなに大変でも、自腹を切ったのいわゆる「自己投資」は、人世には必要だと思います。最近、私と同じ分野を勉強したい、という若手医師からの相談が増えてきています。その際に良く聞かれるのが“どれくらいお金がかかるのか”ということです。私は以下のようにアドバイスしています。「確かにお金はかかるけど、ポイントは何をするために留学するかということ。留学から帰ってきて5年目までは、お金はマイナスバランスでいくかもしれないが、これからの人世を視野にいとると、色々な意味で、絶対にマイナスにはならない。我われの留学のポイントは、自己投資であること。医者・人間として、社会に貢献するためのスキルを学びに行くのが最大の目的であるため、経験はお金に換えられない。」

アメリカの学生は、学校入学を決めてから奨学金などの資金集めをするそうで、日本の様に親からお金をもらって、という学生は意外と少ないのには驚きました。事実、アメリカの医学部に通って医者になるまでに、数千万の借金をしているということが、医学誌に報告されていました。ですので、アメリカの医師は、給料の良い病院や科を選んでいるのも納得ができます。

以前、とあるCMのキャッチフレーズに「プライスレス。お金で買えないものがある」というものがありましたが、まさしくボストン留学は、その**“プライスレス”**の経験となりました。高校や大学を卒業すると、仕事や身の回りのことに時間を取られがちですが、私は人間は常に学び続けなくてはならないと思っています。時間はみんな24時間。どう使うかはその人次第ですが、社会で活躍されている方を拝見すると、本当に時間を上手く使い、自己投資の時間を作り出しています。私は医療を通じて貢献したいと考えていますが、それだけではないはず。どの分野で自分が人に、そして社会に貢献できるか。これまで得た“点”と“点”の経験をどう繋げ、新しい分野を開拓していくか、日々模索中です。

次回は、ボストンの楽しみについてお伝えしたいと思います。

内山 伸（平成5年卒）

*内山さんは現在、浅草クリニックで内科医としてご活躍中。

「知ったかぶりの“まめ知識”」の第1回目は、春の季節には最もふさわしい「桜」です。その桜の代表格と言えば「ソメイヨシノ」ですね。この「ソメイヨシノ」は、エドヒガンザクラとオオシマザクラの交配で誕生した品種で、そのルーツは、江戸時代の染井村（現在の東京都豊島区駒込）で、明治になって奈良・吉野山の山桜と区別するために、「染井吉野」（ソメイヨシノ）と命名されたそうです。この「ソメイヨシノ」は、種子繁殖能力がほとんどなく、全国にある「ソメイヨシノ」は、すべて人の手で「接木」で増やしたそうで、つまり、すべての「ソメイヨシノ」は、原木と同じ遺伝子の“クローン”のようです。先日、「ソメイヨシノ」のルーツである豊島区駒込の「染井吉野桜記念公園」（写真）を訪れ、満開の「ソメイヨシノ」を存分に堪能しました。皆様も是非、探訪してみてください。きっと、新しい発見に出会えますよ。（編集者）

知ったかぶりの“まめ知識” - vol.1

-知っとなはっですか？-

「ソメイヨシノ」編



「自分の体験重視の子・孫育てのおすすめ」

私は、東京鶴城会の境屋副会長、河野事務局長、永井氏らと同期で、宇土市本町四丁目の酒屋の次男といえど同窓の方もご理解願えると思います。高校卒業後、子どもの発達心理、メンタルヘルスといった分野を専攻し、現在も保育士、幼稚園教諭、介護士などを養成する場に身を置いています。

ある宴席の場で、最近、マスコミ（一部の人からマスゴミと言われる傾向があるようですが）でよく使われている「発達障がい」という言葉が出て、その時、私心を述べるよう勧められ、筆を執ることにしました。発達障がいは、40年前、M.B.Dという外国名で呼ばれ、落ち着きのなさ、興味のこだわり、他人との交流の困難さなどがその特徴とされています。このような傾向は程度の差はあれ、誰にでもあることで、東大三羽鳥といわれた私の恩師の教授も「自分もこの症状だ」と自認されていました。

しかし、困ったことに、マスコミが取り上げることで、「手がかかる子」として、小学校入学時から普通学級から特別支援学級に追いやる傾向が出てきているようで、特別支援学級在籍児童数の増加という結果が出ていると言われます。皆さん、自分の体験を顧みてください。昔からこのような子が多くいたのではないですか。この子が興味あることに、大人がすりより、子どものやるようにマネて遊ばせ、子どもは心を開き、交流ができるようになるのではないのでしょうか。症状が少しみられるからと言って、病名をつけ区別するのは、悪い傾向ではないのでしょうか。今日こそ自分の体験を重視した子・孫育てが大切だと私は思います。

淑徳大学短期学部教授
萩原 英敏（昭40年卒）

卒業年度幹事は、頑張っています！

毎年5月の第4土曜日に開催される「東京鶴城会」総会・懇親会（今年の会場は、東京ドームホテル）の成功を目指して、**卒業年度幹事（順送りでの年度幹事主体の活動が数年前から不可能になり、全卒業年度幹事総出で対応中）**は田中会長を中心に、年に数回の幹事会を開き、役員人事、総会準備、会計報告、会報『東京鶴城会便り』発行等について、積極的に議論を交わし、東京鶴城会の発展に努めています。添付写真は、幹事会後のつかの間の憩いのスナップ写真です。会員の皆様からの貴重なご意見を参考に、東京鶴城会を盛り上げてまいりますので、今後とも、ご理解とご協力をお願い申し上げます。



都内散策を満喫しました！

3月末、今年の総会に向けたミニ幹事会の後、田中会長、池田さん、坂崎さんと一緒に上野・旧岩崎邸庭園（写真）から東京国立博物館までを散策いたしました。

同博物館では、桜の花の絨毯が印象的な日本庭園を眺めた後、常設の考古展示室へ。こちらには、玉名郡和水（なごみ）町「江田船山古墳」からの出土品一括（国宝指定）が展示されています。今から約1500年前の古墳時代（5～6世紀）、この地を治めた権力者は中国・朝鮮半島から伝来した当時、最先端の装身具や馬具を取り入れていました。流行に敏感な熊本県民の『わさもん』気質は、この頃から培われていたのでは...と思いを馳せるのは、こじつけが過ぎるでしょうか。

東京国立博物館は、入場料600円のみで、古代から現代までの日本美術・東洋美術の常設展示を楽しむことができます。散策がてらに、皆さまも是非、足をお運びください。

浅沼信雄（平成9年卒）



私のグルメレポート！ - Vol.6 - - 東京で味わえるふるさとの味 -

今回はお店ではなくて、春らしい名前の美味しい日本酒です。そのお酒の名前は、「**瑞鷹 純米酒 菜々**」（「さいさい」と読みます）。八代市鏡町で、菜の花畑から菜種を収穫後に残った葉や茎を畑に鋤きこみ、菜種油粕の有機肥料を施し除草剤を使わずに育てられた菜の花米（酒米の品種は吟のさと）を100%使用しています。

お米の味が活きた柔らかな甘さの中に、さわやかな酸味を感じるスッキリとした味わいで、どんなお料理にも合うと思います。

ワイングラスで飲む、おいしい日本酒コンテストで**金賞を受賞**しています。

以前ご紹介した、馬しゃぶしゃぶの「そま莉」でも飲むことができますよ。瑞鷹WEB SHOPで購入が可能です。

熊本の大地のエネルギーがギュッと詰まった、この「菜々」を飲んで、故郷ののどかな春景色を思い浮かべて下さい。

瑞鷹の通信販売 <http://zuiyo.shop-pro.jp/>

あるがままに - 母と愛犬「コロ」への思い -

母は85才から呆けの症状が始まったが、熊本の田舎で、のんきなひとり呆け暮らしなので、大して困っていなかった。

母には、共に暮らす愛犬の「コロ」がいた。室外犬だけど、夜だけ玄関内の段ボール箱に仰向けになり、母に毛布を掛けられていた。ある日、ヘルパーが「お母さんがころっとした便を、時々畳に落としています」と言った。帰省した晩、「コロ」が腰を落として室内を歩き回っていた。(家の外の)トイレを探していたのだ。アレの落とし主は、我慢しきれない「コロ」だったのだ。もっとも、(母は)一人暮らしなので、アレが犬のだろうが、母のだろうが、どうでも良いことではあった。

庭に梅の老木があった。枝の付け根に残った花が散るころ、母は脱肛の手術を受けることになった。「コロ」を他所に預けるために、動物病院へ連れて行ってもらったところ、ダニ退治で、小型犬のマルチーズ・コロは、ふさふさの毛をまる刈りにされた。東京の私にヘルパーからファックス

が届いた。『イタチみたいになったコロを、お母さんが犬と認めません。娘さん説得して下さい』と。「もしもし、毛ば剃ったばってん、それはコロだけんな」と私は母を説得するが、「ああそぎゃんな、コロな。安心したばい。ばってん、うちの犬は誰が盗って行ったつだろか。代わりに、こぎゃん妙なもんば、置いて行ったもんなあ。イタチでもなかごたる...」と、この会話の繰り返し、母は見たこともない、生き物とにらめっこだ。しかし、翌朝には、元の「コロ」を忘れて、新参のみょうちきりに、「コロ」と呼びかけていたという。

手術後、犬との呆け暮らしが終わり、施設へ入ることになった時も、母は「賑やかで安心たい」とすんなり馴染んだ。花屋さんに引き取られた「コロ」は、デージーと名前も変わり、真っ白い毛には赤いリボン。ずっとそうだったかのように、すまして座っていた。

“あるがまま”を受け入れた母と「コロ」。お互いの存在は、そのまま古い家に置き去りにした。茶渋のついた湯呑茶碗と、段ボール箱と共に。

田中久美子(昭43年卒)



幹事会・事務局からのお知らせとお願い

*2011年は東日本大震災が発生したため、総会は中止しました。

2011年度(平成23年度) 東京鶴城会収支報告書 (2011年4月1日から2012年3月31日)

2012年3月31日
(単位: 円)

支出の部	金額	収入の部	金額
総会費	0	年会費	257,860
幹事会費(会場費等)	52,306	総会会費	0
印刷費	221,588	来賓祝儀、寄付金	0
事務用品費	6,761	広告費	50,000
図書費(母校寄贈)	0	利息	50
交通費	0	雑収入(本部からの助成金)	30,000
通信費(切手、送料)	146,500		
雑費(大同窓会祝儀)	10,000		
(小計)	437,155	(小計)	337,910
次期繰越	372,054	前期繰越	471,298
合計	809,209	合計	809,208

次期繰越 <正味財産内訳>

現金	81,373
預貯金 みずほ銀行(普通)	33,491
郵便貯金(通常)	257,190
合計	372,054

監査報告

2011年度会計報告につきまして、2012年4月2日会長立会いのもと監査を行いました結果、収支報告書、明細書、証票等、規約に則り適切に処理されているものと認めますので、ご報告いたします。

以上

2012年5月26日

会計監査

植田 幸一

印

会員のみなさま、お変わりありませんか。今回、会報『東京鶴城会便り』も6回の発行になりました。故郷の風と香りをお届けしたいと思い頑張っています。今後とも財政が可能な限り、続けたいと思います。

宇土中・高校の卒業生という接点を大事に、人とのつながり、人生の潤滑油としても楽しい同窓会です。さらに発展させましょう。

以下、いくつかのお知らせとお願いです。

(1) 会報の原稿を常時募集します。

- ・あの日・あの時、故郷のこと、こんな人あんな人等、テーマは自由です。発行を楽しみにしている方が多くいらっしゃいます。あなたも投稿してみませんか。
- ・感想、希望などお聞かせください。気楽にお願いします。

(2) 住所、氏名などの変更は是非ご連絡ください。消息をご存知の方もお知らせください。個人情報をおに漏らすことは絶対ありません。

- ・連絡がないと途絶えてしまいます。
- ・同期会などの名簿をお送りください。

(3) 年会費、広告、寄付をお願いします。

- ・年会費が活動のベースです。単年度の収支は赤字です。わずかの繰越金で食いつないでいます。

(4) 総会・懇親会への出席をお待ちしています。

- ・同期、知り合いをお誘いの上ご来場ください。お一人様も、もちろん大歓迎です。

連絡先は、封筒の差出人(事務局)へ。原稿は事務局または、編集部の坂崎までお願いいたします。

Email 河野 kohno@msd.biglobe.ne.jp

坂崎 mori.reds-041205@jcom.home.ne.jp

三角出身の人にお祝い！

同封の案内にあるように、今年の東京鶴城会の恒例イベント「ふるさと自慢」は、**三角対旧宇土町**ということになりました。別に勝敗を決めるわけではないのですが、三角の方が、宇土よりも良いところであることを見せてやろうではありませんか。

と、ということなのですが、三角の方が明らかに負けていることが一つあります。それは、この東京鶴城会への出席者の数です。私もここ数年、出席をサボっていたので、あまり言えないのですが、宇土に比べて三角の出席者は、残念ながら、ちょっと少ないのです。そこでお願いの第一は、この5月25日の総会には、できるだけ多くの**三角出身の方に出席**して頂きたいのです。

次に、総会の場でプレゼンテーション（発表）をして頂く方です。あくまでも個人の主観ですが、こういうアピール合戦だと、美人が話した方が好感度は高いと思います。特に、美人の数は、三角の方が宇土よりもズッと多いので、どなたか**三角美人にふるさと自慢**を発表して頂きたいと思っているので、よろしくお願いします。

「〇〇さんが良いのではない？」という他薦でもかまいません。私の方からお願いしてみます。

お願いの三つめは、**ふるさと自慢のネタ**です。私は三角中出身ですので、三角中の学区内のことは何とかわかるのですが、郡浦・大岳や戸馳のことは、余りよく知りませんので、どなたか教えて下さい。特に、青海中や戸馳中の学区内で、高校の先輩や後輩に話しておくべき観光名所、特産品、有名出身者等について教えて下さい。

なお、「三角」というのは宇城市合併前の旧三角町ということなのです。

以上、勝手なお願いで恐れ入りますが、宇土に負けなために、よろしくお願いします。

※ 連絡先は、電話又はファックス:047-382-0539

※ メールは、ikedae@ee.e-mansion.com宛、4月30日までをお願いします。

池田伴雄
(昭42年卒)



西港から見た天門橋（1号橋/天草五橋）

私のグルメレポート！ - Vol.7 - 東京で味わえるふるさとの味 -

今回ご紹介するのは、「熊本バルうせがたん」です。店内は、テーブル席とカウンター席があり、黒板に定番料理やその日のおすすめメニューがびっしりと書いてあり、おしゃれな居酒屋という感じなのです。

馬刺しは赤身、バラ、たてがみの三点盛りと、それにハツとタンが加わった五点盛りがあります。どれも新鮮でとても美味しいです。他にも辛子レンコンや桜納豆、以前、テレビで取り上げられていた、最近の熊本名物「ちくわサラダ天」もありました。特におすすめしたいのは、ネギがたっぷり乗った赤牛のあぶり焼と鯖のスモーク。驚くほど肉厚な鯖のスモークは、シューシーで香ばしく、今まで味わったことのない美味しさ。是非ご自身の舌で確かめて欲しいです。

それにしても「うせがたん」ってなに？熊本のみかん産地の河内町出身の方がやってらっしゃるので、熊本弁かしら？店名の由来を聞くのを忘れてました。ランチには馬肉のカレーライスがあり、これも絶品らしいので、近いうちにまた行って聞いてこなきゃ！

塚原 直美 (昭52年卒)

「熊本バルうせがたん」渋谷区神泉町10-17-2F
TEL 03-6416-3825

<編集後記>

今年の東京の桜開花宣言は、3月16日に発表されました。

都内の桜の名所と言えば、「上野公園」や「飛鳥山公園」などが挙げられます。毎年、花見の季節は、桜の木の下では、花見会というよりは、飲み会で大賑わいです。

先日、京都出張の帰りに、念願だった奈良県吉野山を訪れました。ここは、日本一と言われる桜の名所で、約3万本の山桜が人々を魅了してくれます。当日は、まだ、ほとんど桜は咲いてはいませんでした。絶景ポイントから吉野山一帯を一望できて、とても感動的でした。

帰りに土産店で買った、満開の吉野山桜のポストカードを見ながら、自宅で花見気分をじっくりと味わっています。

松藤 明
(昭和50年卒)

田中 幸資
(昭和38年卒)

車の買い取り・販売のご相談は

日東金属株式会社・車輻部

代表取締役 永井 秀夫
(昭40年卒)

〒158-0083 世田谷区奥沢7-11-5
TEL 03-3704-0161 Fax 03-3704-0170

昭40年卒 境屋 由夫
(宇土市本町5丁目出身)

実家は蒲鉾製造販売の老舗です。宇土に御帰郷の切は是非、「境屋かまぼこ店」にお立ち寄りください。
住所：宇土市旭町421-4
TEL：0964-22-0162

東京宇城市会
宇城市出身の方、是非、ご参加下さい。

塚原 直美 (昭52年卒)

〒154-0002
東京都世田谷区下馬3-32-8-205
E-mail: yavo-reene@s9.dion.ne.jp

PAPER AND PRINTING
グローイン

代表 森内 忠美
(昭50年卒)

〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-62 2F
TEL & FAX 03(3259) 1116
E-mail: growintn@aol.com

ウイルス対策・除菌・抗菌・消臭
『マタタコロ』
株式会社エースネット

萩原秀文
(昭42年卒)

56会 (昭和31年卒)
大川 勝利
櫻井 正男
島田 勝年